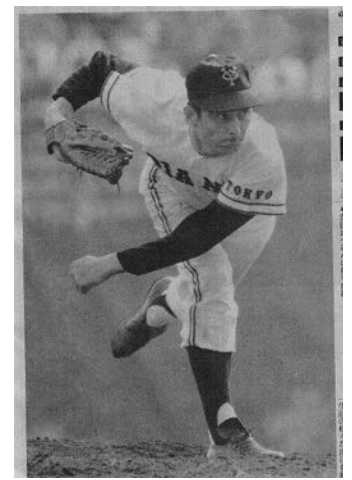


## 金田さんの「得意の○○」に学ぶ

### 1. 超人的なレジェンド

右掲は、10月7日読売新聞朝刊にあった金田さんの訃報を報じる記事にあった金田さんの力強い投球写真、最後まで投げる方向を見ているのが凄いと思います。10月6日NHKの大河ドラマ「いだてん」の放送中に速報で訃報のテロップが流れました。86才。金田さんは国鉄スワローズの初年度の途中で高校を中退して入団しておられ、15年在籍、と巨人で5年、通算20年で400勝298敗防御率2.34点脱三振4,490という偉大な実績を残されました。400勝は、もちろん、298敗は不滅の数値だと思います。背番号34は巨人の永久欠番になっています。

金田さんは、途中入団にも関わらず8勝12敗からスタートされています。私は昭和24年生まれですから、この頃の大活躍は知らないですが、巨人に移られた昭和40年は高1でしたからTVで見る金田さんの大活躍が印象的です。スター軍団の巨人でも川上監督が「代打、金田」と指名されたのが強烈に残っています。バット2本をグルグルと回して柔軟体操



しながらバッターBOXに向かわれた姿を思い出します。打者としての金田さんは、投手として登板しての36本塁打は史上1位で、他に代打に起用されて2本の本塁打を記録しており、通算本塁打は38本も打っておられます。近年の大谷選手の2刀流と比較するのはおかしいかも知れませんが、時代背景を考えると凄いことと思っています。

私の実家の隣は酒屋さんでしたが、息子さんが広島カープに入団されていました。万年2軍暮でしたが、退団の年、消化試合的な時に、TV中継があり、金田さんが投げている時に、古場監督が代打に起用されて、ほぼ三球三振的な結果でした。その後、シーズンが終わって帰って来られた時に金田さんの印象を聞いたら「天井から落ちて来る感じのドロップ」と言っておられました。落ちる角度が大きいので、初体験の隣人は為す術がなかったという印象だったようでした。

### 2. 2つの魔法の呪文

私は、金田さんを凄いと思うのは必勝請負人的に川上監督に乞われて入団された事です。ミスタープロ野球の長嶋さんを筆頭に王さん、森さん、広岡さん、末次さんなどと超一流の選手がいる中で、科学的という言葉が流行り出した頃に、「野球の基本は練習や」と言って、練習も率先垂範してランニングに励んだり、肉体の為には治療や食事に気を配っておられたとの事です。このようにして大投手金田さんがチームを変え巨人軍のV9をもたらしたと言われていています。また、ロッテの監督もされて日本一にもなっておられます。

ゴルフも上手な方で、確かに、プロ顔負けの長打力もあり、金田さん独特のトーク術で自分の番組をもっておられた時期があり、「得意の8番アイアン」(ランニング・アプローチ)と「得意のスライス・ライン」という暗示法を持っておられました。私もゴルフに熱心だった頃は、金田さんの2つの呪文を唱えていました。確かに、8番アイアンでランニングすると距離感を出しやすく、また、丁度良いころがり具合で最後の方では傾斜やラインが見えるのです。さらに、「得意のスライス・ライン」では、オーバーしても返しが上りパットになって強く打てるケースが多かったのです。

ともかく、金田さんは野球もゴルフも人並み以上に熱心な方で、それも、頭ではなく実践できる事にのめり込まれる感じの方だったのです。大投手の金田さんが基本は足腰だと唱えられてランニングをリードされるのですから、長嶋さんや王さんに与えた影響の大きさは計り知れないものがあると思います。机上の空論と言われるような現場で実践が覚束ない理論よりもシンプルに自己暗示して、その呪文と一緒に自分が率先垂範してリーダーシップを発揮する事の大切さを思います。即ち、山本五十六元帥の「やってみせ・・・」の格言にも通じており、リーダーの基本は「率先垂範」だという事を実感するのです。

### 3. 「大廃業時代」に思う

10月6日のNHKスペシャルは「大廃業時代～会社を看取(みと)るおくりびと～」という物でした。番組のHPでは、「大廃業時代の背景には、リーマンショック後、借入金の返済を猶予する政策やマイナス金利など超低金利政策などで、利益がほとんどなくても“生き延びる”企業が数十万社にも上ったことがある。番組では、“おくりびと”がリスクの高い企業を無用に延命するのではなく、取引先や従業員、そして地域経済にも大きなダメージを与えない「いい廃業」へと導く過程を密着ルポで描き出す。さらに、帝国データバンクと共同で、全国140万社の「廃業予測データベース」を解析。専門家の分析も交えながら、地域経済を循環・再生するヒントも探り出す。」とあります。

本当に「いい廃業」ってあるのかと疑問に思います。「計画倒産」という響きの悪い言葉がありますが、それに近いものです。「倒産」と「廃業」の相違は、事前に関係者に通知するか否かではないかと思えます。「廃業」は計画的に進めるので、いろんな方に迷惑をかけないという点では「いい廃業」だと思うが、その理由の一つが後継者に目途がつかないという現実ならば、他にも企業を存続させる方法があると思えます。

また、「いい廃業」であっても、経営者だけではなく、従業員や仕入先・得意先そして金融機関に影響するので、この影響をどのように回避するかが重要なポイントとなります。実際に、うちのお客様でも「いい廃業」を選ばれた事があり、社員の給与や退職金を支払い、関連の会社に社員を斡旋されたり、独立自営の為に資産を譲渡されたりして、さらに、仕入先などに負債とならないように弊社にも振り込んで頂きました。最終的に、抵当に入っている自宅を取り上げられて、今は娘さんと一緒におられるという事です。

一方、最近では少ないですが、経営に行き詰った方が自殺するという悲惨なケースもあります。中には、同業者が相互に手形を融通しあっているケースもあり、一方が不渡り手形をもらって連鎖倒産ということもあります。こんな場合、経営者に負担が大きく、その上、急激なので社員や仕入先や金融機関に大きな被害を与えるので、「いい廃業」を選ぶのもありかと思えます。

### 4. 魔法の呪文「得意の〇〇」

残念ですが、「ビジネスに行き詰る」は資本主義の宿命的課題です。しかし、経営者の資質によっては結果に差が出るのも事実です。前述のように「廃業」が多いという事実の中には、反面、新しい起業があって伸びるチャンスでもあるのです。つまり、「ピンチはチャンス」という事ですが、「ピンチ」は自社だけではなく他社も同じだと思うか、うちだけが「ピンチ」と思うかの差が大きいのです。この「差」は資金繰りの余裕が大きく影響します。実際に、他社もピンチの状況であれば、自社の不得手な面に投資して、他社の得意を消しに行くことが大切なのです。

私は、「もし、金田さんだったら。どうするか」と自問自答すると「あなたは何が得意か」と訊かれると想うのです。必勝パターンと言いますが「得意の〇〇」をメイクする事で、自己暗示にかける事が重要な事だとおっしゃると思うのです。全ての分野で「得意」があるという訳ではないので、相手のスキマをつく「得意の〇〇」を創るのです。状況によっては、「選択と集中」で新しい「得意の〇〇」が誕生して反転攻勢になるのです。一朝一夕には行かないですが、コツコツと進める事で実現可能なのです。逆説的ですが「得意の〇〇」があるから楽しくビジネスを行えるとも言えるのです。「得意の〇〇」と呪文を唱え明るく振舞えば、「運」や「ツキ」が寄ってくるのです。

また、金田さんが足腰を鍛えるランニングを率先垂範されましたが、ビジネスおけるランニングは何かと問いかける必要があります。私は、「得意の〇〇」をメイクして、それを腑に落ちる形にしてトップから率先垂範で「事業」化する事と考えます。「事業」つまり「大黒柱」の本数が増える程、競争優位になるのです。前述のように、平素、価格で負けている商品を強化して、他社の売りを刈り取る事、つまり、「得意の8番アイアン」のように一つを絞り込む事で流れが変わるのです。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】